

「区における行政への参加の考え方」検討の方向性に関する説明会 区民会議委員経験者からの主な意見（幸区）

1 開催状況

- (1) 日 時 令和2年12月21 日(月) 15:20～16:20
- (2) 会 場 幸区役所4階ラウンジヤマブキ
- (3) 参加者 4名

2 実施概要

1. 開会
井川区政推進課長から挨拶した。
2. 「区における行政への参加の考え方」検討の方向性の説明
配布資料に沿って、説明した。
3. 質疑応答
質問・発言を希望の方に、挙手及びご発言していただき、意見交換した。
4. 閉会

3 意見交換の内容（要旨）

- (1) 川崎市が目指しているこの会議は、運動体として動く会議なのか、活動体として成長させていきたいのか。

物事を決める時に、アンケートを取っても、かなわないというようなことが何でも前提としてあると思うので、必要に応じて、意見を聞くとかならわかる。

住んでいる人が気づかず、引っ越しをしてきた人から言われて、気づくことがある。例えば、ゴミの問題で、外国人には分別がわからないので、目でわかるように絵で表記してほしいなどの意見があったが、この前、葛飾区の清掃工場に行くことがあり、色々な言語で表記がされていた。そのため、川崎市でもそのくらいはできるのではないか思った。

いつも意見で出てきたのが、区民会議を一生懸命やっても、周りの人は知らない。

また、南部と北部で課題が違うと思う。

（市民文化局区政推進課）

これまでの区民会議の成果と課題を紐解いていった時に、最大20人、1期2年という、短い。附属機関という形にしてしまうと、条例設置になってしまい、枠が固まってしまうので、

何とかしたい。

関わってくれた人は知っているが、12年間もやったのに、それ以外の人は知らないという課題もあった。そのため、関わっていただく方を増やしていきたい。2年ということではなく、課題に応じて、展開をしていきたい。生活者目線のご意見をいただくのを制度的に保障していくというのが、スタートである。

検討すべきテーマによって、実施すべきパターンが違って、良いと思っているので、運動体にするのか、活動体にするのか、はっきりしていないが、皆さんが課題と感じていることに対して、意見をいただきやすい場を設置していきたい。そのため、1つの形でやるのではなく、2年間でどれだけ具体的な取組を重ねられるかだと思う。

- (2) 市と区で、同じことをやっていることが多いので、もったいない気がする。1つのワークショップを、どう要素として、スキルと目的をつないでいくのか。そのため、今回のものは、難しくなる印象がある。

また、具体的に誰に声をかけて、誰が参加するのか。それによっては、誰も来ないワークショップや、いつもの人が来るものになってしまうので、やりたいことと齟齬が出てくると思う。

(市民文化局区政推進課)

長々とずっと活動されている人たちがいる中で、初めて地域に出てきた人はまだ別の視点で気になるところがあるが、それは前からやっているというのは、よくある話である。そこは解決に向けた正解がなく、どうやったら良いか、試行錯誤で悩みながら、やっていく。

どうつないでいくかという部分について、まちづくりの専門家にファシリテートしてもらい、専門性を発揮してもらうのは今もやっているが、場づくりはまちづくりの専門家が得意なので、職員は、そこで出た意見に向かい合うなどの役割分担をしている。一方で、専門家ばかりに頼っていても仕方ないので、地域コーディネーター研修をやっており、ファシリテート技術などの向上を図っている。1つのチャレンジとしては、職員にこういうことをやってもらっていくこともあると考えている。

誰に声をかけるかということについて、例えば無作為抽出の手法など、そういった手法も試していく。

- (3) 自転車の無謀ぶりがいつも気になる。信号無視なども多い。またやるのであれば、自転車マナー向上をやってみたい。

(市民文化局区政推進課)

何かが起こってからでないと、対応がない部分があり、生活する上でも、大きな課題である。どうやって解決していくかは、地域の方の知恵とご尽力が必要になると思う。

- (4) これまでの区民会議について、内容の濃いものやってきた自負がある。このやり方のどこがいけなかったのか具体的には感じなかった。確かに、区民会議は狭いし、一部の方かもしれないが、やったものが悪かったのかと感じた部分もある。

この3年で社会状況も変わってきており、新型コロナウイルス感染症の影響で、リモートになっ

たり、機器の格差が生まれている。なので、身近なことを取り上げてもらえたら、嬉しい。

(市民文化局区政推進課)

区民会議の中身というより、会議の回し方や運用面の課題が大きかった。新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインが出てきて、できる人とできない人がいるが、行政側もそういうできない人をサポートしていくことで、市民生活も上がって行くと思う。

今後、説明会もやる予定で、オンラインと併用で色々な方に来ていただける工夫もしていきたい。

(5) 中小企業を経営しているが、川崎市はマイスター制度など、色々な面白いことをやっており、魅力がある。

物事を決めるときは、大人の約束として、ある程度期間を区切るのは必要だと思う。

(市民文化局区政推進課)

企業市民の方は、参加者として希少価値が高いので、こういう場に来てもらえるのは大きな価値があると思う。

大人の約束事としてということであるが、一定の時間をかけないと決まっていけない問題もあったり、1回で見えてくるようなものもあったりすると思うので、その中で、どういうやり方がマッチングできるのかは、検討していきたい。